

●炭焼き原木の切り倒しと運び出しができました。

2025年度の炭焼き体験の開催は原木の準備が難しくて中止となるのではないかと予想していたところ、有難いことに山の地主さんから木の提供の

お話をありました。現場を見てみると大型ビニールハウスを使った栽培農家が接近しており、切り倒せば大きな影響が考えられる条件の悪さがあって、私たちでは手に負えないものでした。しかしどうにかならないものかと考え、根元からの切り倒し方法



でなく上部の枝を少しづつ切り落とす方法で時間をかけて切り倒すことに成功しました。まだ一窯分の原木には半分程度の準備ですが残り3本を切り倒す事が出来れば一窯分の分量に到達できるのではないかと思います。原木の目途が付きましたら窯詰めと着火の日程をニュースでお知らせをいたします。昨年の伝統的炭焼き体験で学んだ原木樹種の統一や空気調整と排煙の変化などを活かして成功させたいと思います。この辺りの技術を学んでいただけるのではないか



でしょうか。参加料は無料です。多くの方のお越しをお待ちしています。また、木炭のご利用がありましたら是非ご連絡をお願いいたします。木酢液もありますのでご利用をお考え下さい。ご連絡をお待ちしております。里山の会事務所 TEL. 0774-64-4183 (FAX 兼用)

●竹エンピツの竹割機の治具が3年目に出来ました。

竹エンピツの製作を始めたとき最初の難関は適当な竹の準備で、孟宗竹、真竹、淡竹などからの選定でした。そして竹を寸法に割る道具作りでした。割った竹を手触りの良さや使いやすさ、鉛筆の芯がなくなればどうするのかという質問があり、イーゼルとして使っていただける方法を考え出すなどの工夫をしてみました。またゴルフ場さんからはポケットに留めるところがあればといった声をお聞かせいただき改良を進めてきました。今回原点である竹割機の工夫を行い、写真のような竹割機が出来上りました。鉄には使い方によって素材の強度や硬軟に種類があることを教えてもらって素晴らしい竹割機が製作されました。動力を利用するよりも手工業的な生産が出来る治具になりました。これならどなたでも手軽に同質の作品の生産が可能になります。これまで目算での作成のためバラツキが発生していましたが改善されました。大量に割れますのでお手伝いをお願いいたします。



●宇治市で就労支援活動の「あすなろ」さんが竹エンピツ制作現場を視察に来所

1月21日(水)の午後に障害者福祉でご活躍されている「あすなろ」さんが竹エンピツの製造施設を視察に来られました。木下さんが対応されて竹エンピツのできるまでの冊子を丁寧に解説され、説明を受けた吉田さんは上役と相談するとおっしゃっていました。里山の会としては

アイデアを具体化して製作に取り組んでみようかという施設が来訪されたのは最初の出来事として非常に嬉しいことでした。

●今年は阪神淡路大震災から31年、東日本大震災から14年、能登半島地震から2年目を迎えています。

人口密集地での巨大地震での大量の死傷者の発生や火災の発生、巨大津波の恐ろしさ、そして原子力発電の安全神話の崩壊、半島での被害の発生と通路の遮断などでの復興の遅れ、そして冬季での地震の発生などが多くの問題課題が明かになりました。今年は里山の会結成30周年記念講演を11月14日に予定をしています。起こると予想されている「東南海地震と私たちの暮らし」（演題）をお願いしています。それぞれの皆さんのがこれらの地震を経験されて、どういう思いでおられるのか、何を感じておられるの等について思いつくところを是非記録にとどめていただき、会誌60号の仲間の輪の部に提供をお願いいたします。このことで記念講演が身近になるのではないかと思います。災害は忘れた頃にやってくると語られています。山城地方では300人以上の死者が出た8月14日の豪雨による山城大水害、そして一か月後に9月25日の淀川決壊があったのは1953年で73年前の出来事でした。



●竹蛇籠製作講習会の呼びかけ

里山の会では2026年2月7・8日に玉水浜で将棋頭型水制工の設置を計画いたしました。今年は砂州頭を予定地として1月26日に設置場所の位置を確定いたします。午前10時に玉水橋東詰め広場にご参集をお願いいたします。また竹蛇籠製作を同場所で1月24日、1月31日、2月1日、2月3日の4日間9時30分から終日行います。今年は準備が遅れていますので少し腹を決めて頑張りたいと思います。多くの皆さんのご参加とご協力のほどよろしくお願いいたします。寒さ厳しい時期ですがカルバートの中ですので雨天決行で行います。防寒対策を行ってご参加ください。

結成30周年記念事業 地域説明会のお知らせ

「自然が好き」から始まる地域のつながり

2026年1月25日

私たち里山の会は、自らが持っている自然への興味を深め理解できることを奨めていますし、そこから得られた情熱を自分一人を満足させるだけでなく、会員の皆様にお伝えするために、年間一回発行の会誌を通じて広くお伝えしてまいりました。しかしそれだけでは市民が民の多くの方に普及するには足りないと気付き（自然史を大切にする仲間の輪を大きくする）とのスローガンの実現のため里山への開拓の発表会を取り組んできました。山城地域で木津川・淀川の自治体は11町村を統合してしまったので4年間で5回を行ってきました。事前の広報の不足などから効果はしきり得られず展示を気にして立ちの活動のまとめや振り返りが出来る機会としての役割を果たしてこれたと思います。今年は結成30周年の節目でもありますので展示内容の公表発表をこだわりを置いて取り組みたいと思います。

30年の歩みを振り返り、未来の里山を語り合いましょう。

